

大学での学び

- 01 京都薬科大学で学ぶということ
- 02 主体的学習の進め方
- 03 シラバスの活用
- 04 学生実習について
- 05 長期実務実習に向けた心構え

01 京都薬科大学で学ぶということ

京都薬科大学で学ぶこと

本学の「教育理念」・「教育目的」をこの学生便覧のはじめに示しています。

その実現のため同じく冒頭に掲げた5項目を教育課程編成・実施の方針とした教育を実践しています。

このカリキュラムを通して、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスが取れ、さらに高度な専門能力や研究能力を有する薬剤師である「ファーマシスト・サイエンティスト」としての能力を身につけた学生に学位（学士（薬学））を授与します（卒業認定・学位授与の方針）。

薬剤師の資格があり、上記のような能力・姿勢を身につけていてこそ、医療現場で求められる人材となれますし、社会に貢献できる存在になれると考えています。

しかし、社会に求められ、貢献できる人物になるためには、ただ漫然と大学から提供される「カリキュラム」をこなすだけではなく、「主体的な取り組み」が重要になります。

高等学校までの勉強と大学での学びの違い

では、**主体的に学ぶ**とは、どういうことでしょうか？高等学校までの勉強と比較して考えてみましょう。

◆高等学校までの勉強

- 教室での授業が多く、ほとんどが受動的
- 学ぶ範囲や答えが決まっており、知識を蓄積することが基本

- 正解を導き出すための手順（解法）を覚えることが重要

◆大学での学び

- 講義、実習、演習、学外実習、卒業研究など多岐にわたる教授方法
講義についても、シラバスに示している到達目標を達成する（＝単位を修得する）ために、90分の授業だけでなく予習・復習*が必要になります。

- 学習は自分で計画して進める（自分の関心に沿った学習、不得意科目の克服など）

- それまでに身につけた知識、取り組み姿勢をベースに、総合薬学研究（卒業研究）では、まだ答えの出していない課題に取り組みます。

*大学設置基準では、1単位は45時間の学修によって構成され、講義および演習については、15～30時間の間で大学が定める授業を持って1単位とするとあります。

つまり、1単位を修得するためには、単純計算で30～15時間の個人学習が必要です。

つまり、主体的に学ぶということは、

- ・ 授業への参加意識を持ち、予習・復習は教員の指示がなくても取り組む
- ・ 授業に関係なく自分の将来の目標に即して自立的かつ自律的に学ぶ
- ・ 授業に触発されて学ぶ…

といったことです。

その手助けとなるよう本学では、次頁以降に紹介する様々な機会を提供しています。自分なりの学びのスタイルを発見して、充実した大学生活を送ってください。

02 主体的学習の進め方

京都薬科大学学生ポートフォリオについて

本学では、6年間の在学期間をとおして、みなさんに主体性を身につけ、自己理解を深めてほしいと考えています。

その助けとなるように、「京都薬科大学学生ポートフォリオ (KPU 学生ポートフォリオ)」という取り組みをしています。

みなさんはポートフォリオという言葉をご存知でしょうか？ポートフォリオとは元々「書類を運ぶためのケース」を意味します。美術系の領域では「自分の能力を周囲に伝えるための作品集」として使われています。自分らしさを伝えるために自分の記録を残しておく容れものといったイメージでしょうか。

みなさんにもこれからの6年間の作品集を残してほしいと思います。

ではどのように6年間の記録を残していけばいいのでしょうか？

まずは授業で学んだことについて。本学ではみなさんの学びをサポートするために manaba という Web システムを導入しています。このシステム上でレポートを提出したり、小テストに解答したりします。教員が設定したレポートや小テストなどは、manaba 上の学生ポートフォリオに保存されます。

授業ばかりが大学生活ではありません。クラブ活動や普段の生活の思い出なども記録してください。こちらの記録方法は自由です。SNS でも構いませんし、日記をつけることもいいでしょう。どのような方法でも構いませんが、そのときに感じたこと（楽しい、うれしい、悔しい、悲しい…など）も綴っておいてくだ

さい。

また、新入生オリエンテーションで6年後の自分をイメージするワークをしたと思います。そのイメージに近づくために、1年後と半年後の目標を立てました。今後は、manaba 上のシートを使って、半期ごとに振り返りをして、次の目標、行動につなげていきます。

以上のように、大学生活を記録すること、目標を立てて行動することが KPU 学生ポートフォリオの取り組みになります。

最初にポートフォリオの目的を2つ上げました。このような取り組みからどうしてこれらの目的が達成できるのでしょうか？

目標を立てることは主体的な行動です。自分で立てた目標を1つ達成すれば次の目標を立てることになるでしょう。また達成できなくてもその原因を探り、次の行動に移していくものと思います。

また、記録を残しておき、それを振り返ることで、“その時”の自分と“今”の自分の違い（成長）がわかると思います。

自分を理解しておくことは、近い将来では就職活動で役立つでしょうし、その先においても有効なことだと思います。KPU 学生ポートフォリオを積極的に活用して、薬学の学びや自己理解を深めていくことを期待しています。

TOEIC® について

みなさんは、グローバル化、グローバルイゼーション (globalization) という言葉を聞いたことがあると思います。「国

家などの境界を越えて広がり一体化していくこと」と定義されます。企業の海外進出が活発になり、人の移動も盛んになっています。私たちは、好むと好まざるとに、意識している意識していないに関わらず、常に日本以外の国や人に関わっていることとなります。

そして、世界の標準語として「英語」が重要視されていることはみなさん周知のことと思います。多様な文化、言語を背景とした人々と意思疎通を図るために、これからは英語の能力を伸ばす、維持することが重要です。

例えば、薬が市販される前に実施される治験は、現在世界同時に実施されることが当たり前になっています。世界で治験を進めるためには、治験を計画・実施する製薬企業で英語が堪能であることが求められることはもちろん、治験に参加する患者さんと関わる薬剤師も服薬指導をしたり記録を取るために英語で書かれた書類を理解することが重要になります。また、病院や薬局に日本語を理解できない外国人が来るかもしれません。

大学でも英語の授業がありますが、個人の努力も必要になります。そこで、本学では在学中に1、3、5年次の3回、みなさんにTOEIC® L&R 試験を受験する機会を提供しています。

1、3年次は本学でIPテストを、5年次では公開テストを受験します。各回の結果を踏まえて、次の目標を定めて学習を進めてください。

なお、TOEIC® でScore700以上を獲得した場合は、「語学検定（TOEIC）」として単位を認定します。

海外サマープログラムについて

必修科目が多い本学のカリキュラムでは、夏季休業期間等、比較的長期の休暇期間が、「海外留学（短期）」ができるチャンスです。語学留学・異文化体験・海外ボランティア活動等、留学には様々な形態があります。留学を意味あるものにするためには、明確な目的を持ち、周到な計画と事前学習が重要です。

自分で留学先を探す方法のほかに、本学では、夏季休業期間中の2、3年次生を対象に2つのサマープログラムを用意しております。

1つ目はドイツ・フライブルク大学が主催する「ドイツ語とドイツ文化コース」、「英語コース（TOEIC550点以上の英語力が申込要件）」への短期留学です（2コース合計25枠程度）。プログラム内容は4週間大学の寮に宿泊し、午前中にはレベル別のドイツ語又は英語を、午後にはドイツ文化に関するセミナーや各種レクリエーションがあり、世界中から集まる留学生と交流することができます。また大学附属病院薬剤部や薬学部、市内の薬局を見学することもできます。なお、ドイツ語を履修していない学生の申込みも可能です。

2つ目は米国ボストンにあるMCPHS大学への留学（12枠程度）です。プログラム内容は約2週間大学の寮に宿泊し、午前中は毎日英語の授業を、午後は薬化学等の薬学の授業、ボストンの最先端の病院薬剤部や市内の薬局見学を複数回行うもので、薬学部生の将来のために、大変貴重な経験を積むことができます。プレゼン発表会やパーティーなど現地学生との交流機会も充実しています。

上記2つの留学の参加定員には限りがあるため、学業成績やTOEICの点数等を参考に参加者を決定します。なお、帰国後修了証明書を教務課に提出すれば「海外語学研修（自由科目）」3単位を認定しています。

上記2つの留学事業について、詳しくは毎年12月、1月に実施するガイダンスで説明します。興味がある方は、ガイダンスに出席してください。

留学費用と奨学金について

上記2つの留学事業（ドイツ・米国）への参加が決定した学生全員に対し、大学から海外短期留学奨学金（ドイツ10万円・米国20万円）を給付しています。したがって、学生の個人負担額概算（渡航費・食費・観光費等全て含む）は、ドイツ・フライブルク大学で31万円、米国MCPHS大学で37万円程度となります。奨学金給付の目的は、学生の海外留学を促進し、外国での学習および生活を通して、広い視野と豊かな感性を持った優秀な人材の育成に寄与することです。詳細は12月、1月の留学ガイダンスにて説明します。

海外渡航（旅行等）について

留学や学会、観光などいかなる目的であっても、海外へ渡航する場合は、海外渡航届を愛学館1階の国際交流推進室に提出してください。渡航前には、外務省のHPの渡航情報をチェックするとともに、「たびレジ」に登録をしてください。

「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度

「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度によって、大学コンソーシアム京都に参加している大学の授業の単位が本学の単位として認められます。

単位互換制度で修得した科目は、本学の「人と文化」として認定されます。人と文化は、3年次までに5科目7.5単位以上修得する必要があります。なお、単位互換科目が人と文化の要卒単位として認定されるのは、1年間で1科目2単位（通年科目の場合は、1科目4単位）までとなりますので注意が必要です。

本学のカリキュラムは、必修科目がほとんどで、みなさんが科目を選択する余地がほとんどありません。しかし、単位互換制度を利用すれば科目の選択肢が広がり、大学のまち「京都」を体感してもらえそうです。

履修については、「単位互換の実施に関する規程（Web版「学生例規集」）」およびシラバスに掲載している「学修の手引き」を参照してください。

教養を身につけることの重要性は年々高まっています。

「人と文化」を含めた本学での学修を優先してもらうこととなりますが、自分で計画を立て、興味を広げる、知識を深めるために、積極的に単位互換制度を利用して様々な分野の教養を身につけてください。

単位互換に関する質問・お問い合わせは、教務課までお願いします。

PROGテストについて

新入生オリエンテーションで皆さんに「PROGテスト」を受験してもらいました。何のテストなのか疑問に思っている人も多いでしょう。

これは、社会を構成する人として求められる資質“ジェネリックスキル”を皆さんがどれくらい持ち合わせているのかを測るテストです。PROGテストでは、様々な要素があるジェネリックスキルのうちの“リテラシー”と“コンピテンシー”という部分を測定しています。それぞれの意味は以下のとおりです。

■リテラシー：新しい問題やこれまで経験のない問題に対して知識を活用して課題を解決する能力。

■コンピテンシー：成果を上げる行動特性（意思決定、行動指針など）。

PROGテストの結果は、「良い・悪い」といった絶対的なものではありません。ある社会人集団と比較してどれほどの隔たりがあるかを「レベル」として表しているものです。

本学では、皆さんのジェネリックスキルのレベルを知る1つの指標として、入学時及び4年次にPROGテストを実施しています。「現在の自分」を評価しながら、「なりたい自分」に近づくために伸ばしていきたい要素を探す作業や成長を実感するツールとして活用してください。

補習講義（補講）の活用

補習講義（補講）を1年次の時間割に編成しています（概要は下表のとおり）。受講生は指名されます。補習科目は単位認定しません。指名されなかった場合でも、今後の学びに必要なと思う人は、積極的に受講してください。

補講に関する質問・問い合わせは、各担当教員または教務課までお願いします。

1. 高校での未履修科目の補習講義（補講）

入学後に実施する「実力確認試験」の結果により受講対象者を決定します。ただし、次の条件に該当する場合は受講をお勧めします。

- ①高校で履修しなかった科目がある。
- ②「数学」・「物理」・「生物」が不得意である。
- ③新入生ガイダンスで、これらの科目が専門科目にどのように関連していくのか、説明を聞いて必要性を感じた（薬学において「数学」・「物理」・「生物」は基本となる重要な科目です）。

2. 「情報科学」の補習講義

情報処理は、今後薬学を学ぶうえだけでなく、社会人としても必須とされる知識です。これまでコンピュータなどに触れる機会が少なかった人を対象に開講します。

【補講の概要】

科目名	担当教員	開講日	備考	
数学補講	上野	前期木曜 5 講時	関連科目：基礎数学 A / B	
物理学補講 A	有本	前期金曜 5 講時	関連科目：基礎物理学 A / B	生命科学補講と開講日を調整
物理学補講 B		後期金曜 5 講時		
生命科学補講	長澤 他	前期金曜 5 講時	関連科目：生命科学	物理学補講 A と開講日を調整
情報科学補講	藤原 他	前期月曜 3 講時	関連科目：情報科学	

※各科目の詳細は「シラバス」に掲載しています。

情報処理教育研究センターの利用

パソコンは、情報収集や情報公開のツールとして、もはや当然のものになっています。皆さんの学習においても、パソコンはワープロ機能だけでなく、その他の各種ソフトウェア（表計算、プレゼンテーション、化学式の作成など）の活用、Webを利用した情報収集等、活用頻度は高まっています。本学では、学内のパソコン環境整備、パソコンを使用した講義は「情報処理教育研究センター」が担当またはサポートしています（施設の概要は下表のとおり）。

本学の情報処理環境・パソコンに関する質問・お問い合わせは、情報処理教育研究センターまでお願いします。

【情報処理教育研究センター施設データ】

施設名	場 所	演習室	パソコン設置数	利用に関する注意事項
情報処理教育研究センター	本校地/ 教育研究 総合センター 1・2階	K21演習室	220台	主として「授業」で使います。 授業で使わない時はオープン利用可能
		K12演習室	30台	オープン利用可能 インクジェットプリンタ有 (印刷は用紙を持参のこと)
		K11演習室	100台	オープン利用可能 レーザープリンタ有 (年間印刷できる枚数に制限有)

※演習室のオープン利用可能日等

月～金：9：00～20：00（K11、K12）／土：10：00～17：00（K11）
月～金：13：30～18：30（K21）

※学生1人当たりの使用可能容量に制限があるので、大容量の保存は不可（USBメモリ等持参のこと）

自習室の利用

皆さんの自習場所として、愛学館2階と南風館1階に自習スペースを設けています。講義の「予習・復習」および「試験勉強」等に利用してください。自習室のスペースだけでは、全学生を収容することはできませんが、試験前・試験期間中には一部「講義室」を臨時的自習室として開放しています。また、友人同士で教えあうことができる、「教えあえる自習室」も開放しています。その詳細（スケジュール）は、掲示板、manabaでお知らせします。

自習室に関する質問・お問い合わせは、学生課までお願いします。

【自習室データ】

自習室名	場 所	座席数	利用可能時間
A23自習室	本校地/ 愛学館2階	48席	原則 月～金 9：00～21：00 / (土・日・祝) 9：00～21：00
A24自習室		63席	
N14自習室	南校地/ 南風館1階	16席	原則 月～土 8：00～21：00

図書館の利用

一般図書から専門図書まで、幅広い分野にわたる図書資料がおよそ10万冊あります。このほかにも、書架に並んでいない数多くの電子メディア（電子ジャーナル・電子ブック、データベース）を利用することができます。

また、一部の電子メディアおよび図書館サービスは、図書館外からパソコンや携帯情報端末機で利用できます。勉学に役立つツールとして大いに活用してください。

【図書館施設データ】

施設名	場 所	閲覧室	座席数	開館時間
図書館	本校地 躬行館 図書館棟	2階	116席	月～金 8:30～21:00 土 10:00～17:00 ※授業がない期間は短縮開館(8:30～17:00)
		1階	118席	
		地階	69席	

【図書館利用データ】

サービス名	利 用 概 要		
図書の貸出 (要「学生証」)	◆貸出期間等		
		貸 出 冊 数	貸 出 期 間
	図 書	合わせて5冊以内	2週間
	雑 誌		2日
	新 着 雑 誌	貸出不可 ※受入後、2週間経つと貸出可となります。	
禁 帯 出 図 書	貸出不可		
コピーサービス	◆利用に関する注意点		
	※延滞した場合、「延滞日数×2」日間の貸出禁止となります。 ※図書を無断で館外に持ち出さないでください。 (図書盗難防止システムが作動して出口ゲートがロックされます) ※入館方法や予約など、詳しい使い方はホームページの「利用案内」をご覧ください。		
コピーサービス	モノクロ10円/カラー 40円、コイン式コピー機があります。		

薬用植物園の見学

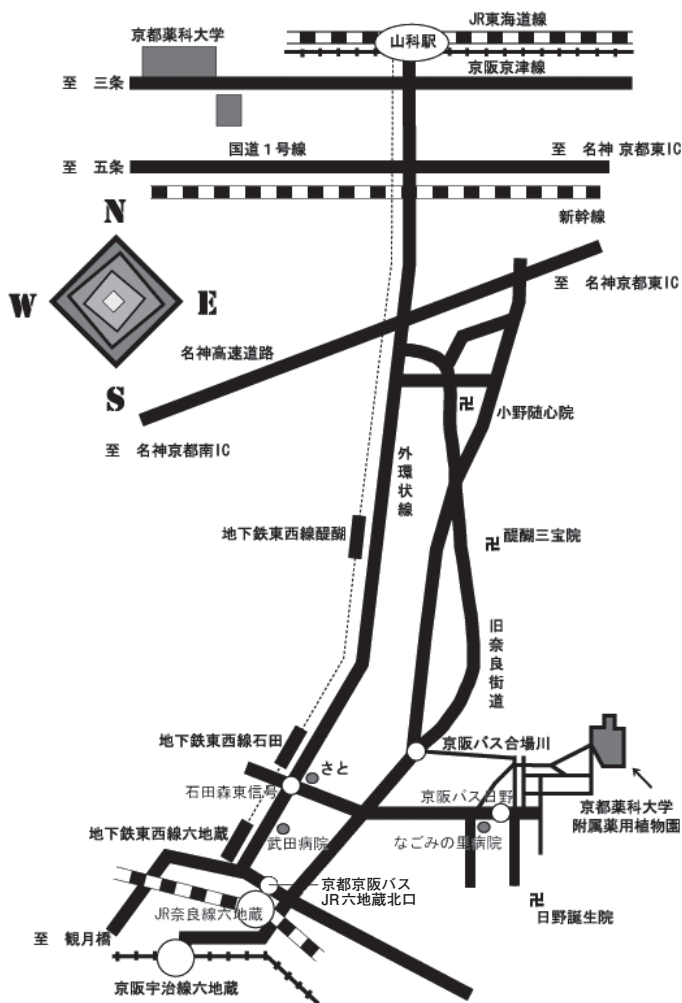
皆さんは「薬用植物園」をご存知ですか？薬用植物園は「薬学部教育」において大変重要な施設とされています。机上の勉強だけではなく、薬の源となる「薬用植物」を実際に観察することは非常に貴重なことです。季節を変えて訪問することで、様々な薬用植物を見ることができます。是非、皆さんに訪れていただきたい施設です。

薬用植物園に関する質問・お問い合わせは、薬用植物園（下記連絡先）までお願いします。

【薬用植物園データ】

施設名	場所	利用に関する注意事項等
薬用植物園	〒601-1405 京都市伏見区日野林39 《連絡先》 TEL: 075-572-7952 FAX: 075-573-5103 MAIL: gmp@mb. kyoto-phu.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> ◆見学希望日「3日前」までに、大学「庶務課」または「薬用植物園」に申請し、許可を得てください。 ※実習や研修会等の実施や園内管理の都合上、入園できないことがありますので、必ず事前に連絡してください。 ◆入園者は本学学生、研究員、研究生、研修員、委託生および職員に限り、学生は「学生証」を携帯してください。 ◆園では、管理棟事務室職員の指示に従ってください。特に次のことに注意してください。 ①園内の植物を傷つけたり、採集することを禁じています。 ②写真撮影可（一部不可・三脚使用不可） ◆駐車場はありません。公共の交通機関を利用してください。 《見学時間》 月～金：9：30～16：00 (大学が定める休日および土・日・祝祭日は入園できません)

【薬用植物園へのアクセス】



薬用植物園御陵園の見学

薬用植物園御陵園は本学グラウンド南側に位置し、2700㎡の敷地には圃場や池、庭園や温室などがあり、約300種類の薬用植物や有用植物を栽培しています。生きた薬用植物について観察し、学ぶための施設です。

○開園日時：毎週金曜日 12：30～16：00

- ・土曜日、日曜日、祝祭日、大学が定めた休日は閉園します。
- ・災害、悪天候、職員不在などの場合、臨時休園することがあります。
- ・金曜以外に見学を希望する場合は事前に職員にご相談ください。
- ・長期休暇中の開園については学内掲示板に掲示します。

○見学方法

本学の学部学生、大学院生、研究員、研究生、研修生、委託生、職員に限り見学可能です。見学をする方は以下の手順で見学を行い、見学のルールを必ず守って見学してください。

<見学の手順>

- ①入園する前に学生証を園内または御陵園管理事務所にいる職員へ提示してください。
(本学職員の方は職員証を提示してください。)
- ②退園の際は御陵園職員に退園することを伝えてください。
※見学には歩きやすい靴、長袖・長ズボンの格好をおすすめします。

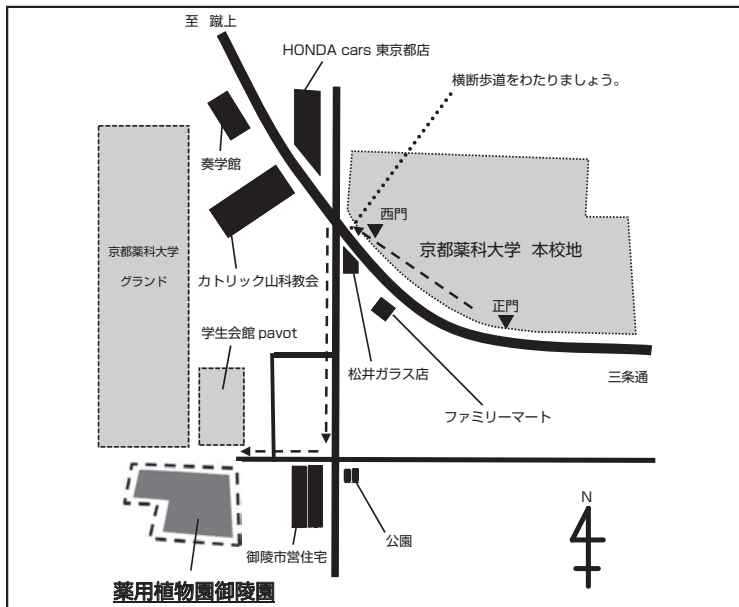
<見学のルール>

- ・園内は全面、禁煙・火気厳禁・禁酒です。
- ・園内での食事は禁止です。
※見学時の水分補給は許可します。
- ・ゴミは持ち帰ってください。
- ・植物を採取しないでください。
- ・植物を口にしないでください。
- ・撮影時の三脚等の使用は原則禁止です。
- ・自転車・バイクの乗り入れ禁止です。
- ・立ち入り禁止看板があるところは立ち入らないでください。
- ・農機具や道具類に触れないでください。
- ・畝や植え込みを踏まないようにしてください。
- ・手荷物・貴重品の管理は各自で行ってください。

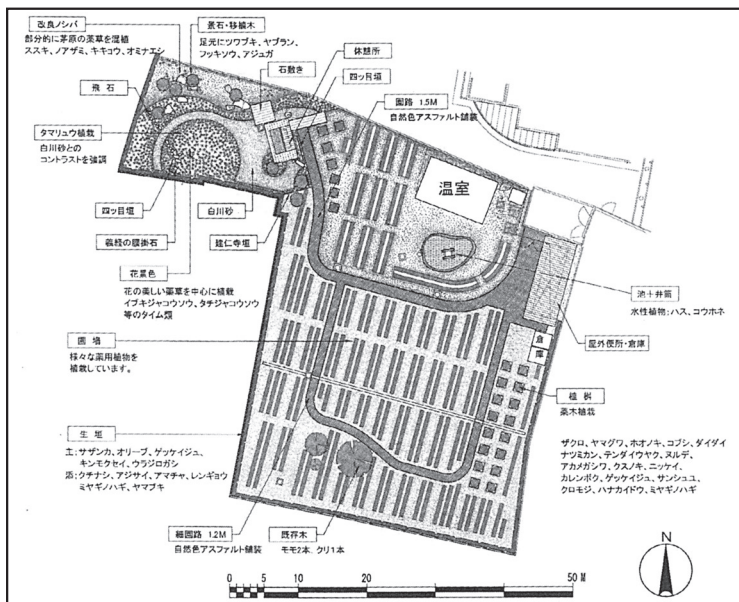
<注意事項>

- ・ハチや毛虫など危険な生物に注意してください。
- ・安全面に注意して見学してください。
- ・怪我や体調不良の場合は職員に連絡してください。
(お問い合わせ先) 075-572-7952 (薬用植物園) または、075-595-4614 (学生課)

■薬用植物園御陵園アクセスMAP



■薬用植物園御陵園園内図



03 シラバスの活用

シラバスは、みなさんが各授業科目の準備学習等を進めるための基本となるものです。いわば「授業のガイドブック」です。

Web上に公開しています。

過去の授業についても掲載しています。振り返り等のために利用してください。

WEB シラバス

<https://saturn.kyoto-phu.ac.jp/>

学修の手引き

シラバスにある学修の手引きでは、「履修」、「試験」および「進級・卒業要件」等について、コンパクトにまとめ説明しています。日々の学修について何か疑問が生じた場合は、まず、この学修の手引きを必ず読んでください。それでも解決しない場合は、教務課まで問い合わせてください。

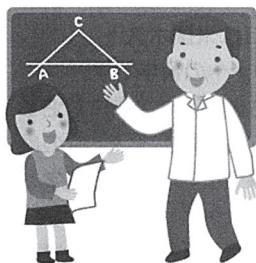
薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOコード表)

薬学教育モデル・コアカリキュラムは、6年制薬学部生が卒業時まで身に付けておくべき必須の能力(知識・技能・態度)の到達目標(SBO)を分かりやすく提示したものです。

シラバスでは、各科目の学習項目ごとにコアカリキュラムとの対応を「SBOコード」により確認することができます。

モデル・コアカリキュラムはシラバスに掲載しています。

なお、SBOコード欄(次ページ「科目の説明」参照)に☆印がある学習項目については、本学独自の内容が含まれていることを示しています。



シラバスを活用した学修方法

各科目のページには、その授業に関する様々な情報が載っています。

当該科目を通して学ぶ内容を示した「概要」から講義ごとの「学習項目」や「到達目標」など学修を進めるための情報を詳細に記載しています。

例えば、「到達目標」を確認し予習をすれば、講義の理解が深まるでしょう。また、講義で理解できなかった点も「到達目標」やSBOコードなどを確認することで復習に役立てることもできると思います。参考書なども理解の助けになるでしょう。

58ページにも記しているとおり、「到達目標」は、講義を受けているだけでは達成できません。講義とあわせて自主学習を進めてください。それでも、理解できない場合などは、「オフィスアワー」等を利用し、積極的に担当教員に質問してみましょう。きっと、課題解決のためのヒントが見つかるはずです。到達目標を達成するための準備学習時間の目安も示しています。

なお、教員への連絡方法については、manabaに掲載しています。

科目の説明

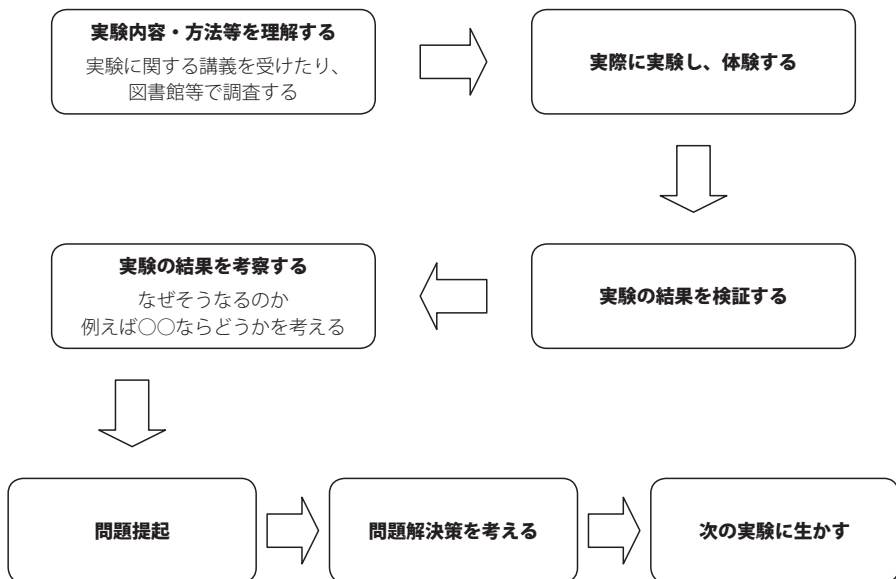
各科目の説明を掲載している部分です。主要部分を以下に示します。

(科目名)					担当教員
(英文科目名)					(担当教員名)
科目群	開講期 年次	授業形態	単位数	必修等	
【概要】 (科目の概要を示しています)					
【授業の一般目標】 (科目の受講を通して、修得しなければならない事項・目標・レベルを示しています)					
【関連する卒業認定・学位授与方針】 DP (科目と関連するディプロマ・ポリシーを示しています)					
【準備学習(予習・復習)】 (講義を受けるにあたって必要な予習・復習の内容や方法、時間を示しています)					
【学習項目・学生の到達目標】 No. 学習項目 担当教員 学生の到達目標 SBOコード ●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●● 1 ●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●● 2 ●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●● 3 ●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●● 4 ●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●● 5 ●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●● 6 ●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●● 7 ●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●● 8 ●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●●					
各講義回の学習項目において、どのレベルにまで到達しなくてはならないかを示しています。 到達目標に本学独自の内容が含まれる場合は☆印で示しています。 到達目標が「コアカリキュラム」のどの部分に写印しているのかを示しています。					
【実務経験】 (実務経験のある教員が、実務の観点を踏まえて実施する学習項目について記載しています)					
教員名 業種 学習項目No. 経験を生かして、どのような教育を行なうのか。					
教科書 (書名) (著者名) (出版社名) 参考書 (講義で使用する教科書・参考書)					
【成績評価方法・基準】 (評価の方法や基準を示しています)					
【評価のフィードバック】 (試験の講評方法を示しています)					
【非常勤講師等】 (「医療の担い手」としてのこころ構えA」と「医療の担い手」としてのこころ構えC)の非常勤講師等については、本務の所属等を示しています)					

各回の学習項目や到達目標を確認し、準備学習をしっかりと行ってください。

04 学生実習について

本学では、1～4年次生に様々な実習を編成しています。皆さんは「大学での実習」について、どのような「イメージ」がありますか。高等学校でも化学の実験等があったかと思いますが、それと同じようなイメージでしょうか？実は「大学での実習」は普段の講義での学習を踏まえた上で、次のように多くの段階を経て成り立っているものなのです。



実習は、先人たちが確立した科学現象の確認に終始するのではなく、それに基づく実験を通じて得られた「現象」を実体験・検討することで、科学的思考による課題発見・理論構築能力を身に付けていくことなのです。このような実習を体験することによって得た科学的な思考能力は、どのような職種の業務にも役立つことは言うまでもありません。

また、実習では、多様な実験機器・試薬を取り扱うことから、事故やケガに遭う可能性は否定できません。例えば「実習中は防護メガネを装着する」等、特に安全面には注意が必要です（実習前には、各担当教員から事故防止・安全管理に関する説明があります）。

05 長期実務実習に向けた心構え

臨床薬学教育研究センター

4年次後期に実務事前実習（一部は4年次前期に補講として実施）を、また5年次（開始時期は4年次2月）において薬局および病院での実務実習（合計22週間）を履修します。実務事前実習では、医療人としての倫理観や使命感を身につけ、調剤や服薬指導等の薬剤師業務を擬似体験し、薬剤師になるための知識・技能・態度の修得を目的とします。学内での事前実習は学外での実務実習を履修する上で非常に重要です。安心・安全な医薬品を患者さんに提供するためには、これまで学習してきた様々な授業での知識を基に、患者さんと接する技能や態度も必要となります。豊富な薬学的知識、正確な調剤技術、そして医療人としての態度を身につけることで患者さんとのより良い信頼関係を築くことができます。実務事前実習だけでなく1年次からの日々の学習が実務実習での成果に直結していることを常に意識してください。なお、実務実習を履修するためには薬学共用試験（OSCE、CBT）に合格することが条件となります。実務事前実習を行う施設の概要を下表に示します。これらの実習に関する質問・お問い合わせは臨床薬学教育研究センターまでお願いします。

【臨床薬学教育研究センター施設データ】

施設名	場 所		室 名	主な実習内容
臨床薬学教育研究センター	本校地	1階	調剤室	散剤、錠剤、軟膏・外用剤、水剤、注射剤
			無菌室	無菌調製 (クリーンベンチ、安全キャビネット設置)
			製剤室、薬品管理室	(補助的に使用)
		2階	病棟・保険薬局実習室	医療コミュニケーション
			R23・R24・R25 演習室	医療コミュニケーション、調剤薬監査、 疑義照会、医療従事者への情報提供
			薬歴管理室、TDM 室	薬歴管理・オーダーリング、TDM、 フィジカルアセスメント
		医薬品情報管理室	(補助的に使用)	